

# 四半期報告書

(第75期第1四半期)

キヤノン電子株式会社

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	2
第2 【事業の状況】 .....	3
1 【事業等のリスク】 .....	3
2 【経営上の重要な契約等】 .....	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	3
第3 【提出会社の状況】 .....	5
1 【株式等の状況】 .....	5
2 【役員の状況】 .....	6
第4 【経理の状況】 .....	7
1 【四半期連結財務諸表】 .....	8
2 【その他】 .....	15
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	16

四半期レビュー報告書

確認書

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年5月14日

【四半期会計期間】 第75期第1四半期(自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)

【会社名】 キヤノン電子株式会社

【英訳名】 CANON ELECTRONICS INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 酒 卷 久

【本店の所在の場所】 埼玉県秩父市下影森1248番地

【電話番号】 0494-23-3111

【事務連絡者氏名】 常務取締役経理部長 石 塚 巧

【最寄りの連絡場所】 東京都港区芝公園三丁目5番10号

【電話番号】 03-6910-4111

【事務連絡者氏名】 常務取締役経理部長 石 塚 巧

【縦覧に供する場所】 キヤノン電子株式会社  
(東京都港区芝公園三丁目5番10号)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第74期 第1四半期 連結累計期間	第75期 第1四半期 連結累計期間	第74期
	自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日	自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日	自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日
売上高 (百万円)	25,722	23,241	105,450
経常利益 (百万円)	3,211	2,728	10,652
四半期(当期)純利益 (百万円)	2,140	1,759	6,213
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,542	2,290	6,857
純資産額 (百万円)	66,154	69,239	68,202
総資産額 (百万円)	91,661	91,628	91,061
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	50.76	42.28	147.68
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	71.9	75.3	74.6

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間（平成25年1月1日～平成25年3月31日）の世界経済は、米国では個人消費や設備投資が伸び、景気は緩やかな回復傾向にあり、欧州では政府債務危機問題等により弱い動きとなっています。中国では、景気の拡大テンポはやや持ち直し、世界経済全体としては緩やかに回復しています。一方、国内経済は、輸出環境の改善や経済対策、金融政策の効果などを背景に、緩やかに景気は持ち直しています。為替は、前期と比べ米ドル、ユーロともに円安傾向で推移しました。

当社グループ関連市場は、デジタルカメラ市場は堅調に推移しました。ドキュメントスキャナー市場は、低価格・コンパクトタイプを中心に市場が拡大しました。情報関連市場は、引き続き厳しい状況で推移しました。

このような中で当社グループは、世界トップレベルの高収益企業を目指し、経営全般にわたりムダ排除に徹底的に取り組み、利益体質の維持向上に注力してまいりました。また、全社を挙げた生産性向上活動、3R（リデュース・リユース・リサイクル）環境活動を積極的に推し進めてまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の連結売上高は232億41百万円（前年同期比9.6%減）、連結営業利益は23億62百万円（前年同期比8.0%減）、連結四半期純利益は17億59百万円（前年同期比17.8%減）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### ①コンポーネント

当セグメントにおきましては、レンズ交換式デジタルカメラ市場が伸びている中で、防振ユニット、シャッターユニット、交換レンズ用絞りユニットともに堅調に推移しました。一方、コンパクトデジタルカメラ用シャッターユニットはスマートフォンの普及の影響等により、ムービー用絞りユニットは市場縮小の影響を受け、売上は減少しました。

レーザースキャナーユニットは販売数が前年同期に比べ増加しました。

これらの結果、当セグメントの売上高は123億90百万円（前年同期比11.3%減）営業利益は13億65百万円（前年同期比10.3%減）となりました。

## ②電子情報機器

当セグメントにおきましては、ドキュメントスキャナーは、昨年下期に投入したimageFORMULA（イメージフォーミュラ）シリーズの新製品を中心として拡販活動を展開し、販売台数を伸ばしました。ハンディターミナルは、飲料業界や金融業界で大型商談を獲得する等、積極的な拡販を続け、市場拡大を図りました。

レーザープリンターは売上が減少しました。

これらの結果、当セグメントの売上高は82億55百万円（前年同期比9.9%減）、営業利益は12億47百万円（前年同期比2.2%増）となりました。

## ③その他

当セグメントにおきましては、情報システム投資が停滞している中、業務分析サービス（ログマネジメント）、名刺管理サービス（アルテマブルー）等の受注活動を積極的に展開しました。また、新製品として、ハッカーによる標的型攻撃から企業の情報を守るWindows用セキュリティソフト「SMLセキュリティスイート」を販売し、拡販を行いました。

これらの結果、当セグメントの売上高は25億95百万円（前年同期比0.1%減）、営業損失は21百万円となりました。

## (2) 財政状態の分析

### (資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は916億28百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億67百万円増加しました。流動資産は518億円となり、1億3百万円減少しました。主な要因は、現金及び預金の減少によるものです。固定資産は398億28百万円となり、6億70百万円増加しました。うち有形固定資産は347億69百万円となり、4億93百万円増加しました。

### (負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債は223億88百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億69百万円減少しました。流動負債は197億58百万円となり、2億60百万円減少しました。主な要因は、未払費用の減少、未払法人税等の減少によるものです。固定負債は26億30百万円となり、2億8百万円減少しました。

### (純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産は692億39百万円となり、前連結会計年度末に比べ10億37百万円増加しました。主な要因は、四半期純利益計上と剰余金の配当によるものです。この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の74.6%から75.3%となりました。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は607百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

##### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

##### ② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年5月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	42,206,540	42,206,540	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	42,206,540	42,206,540	—	—

(注) 提出日現在発行数には、平成25年5月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年3月31日	—	42,206,540	—	4,969	—	9,595

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。



## (7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成24年12月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

### ① 【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 605,800	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 41,350,500	413,505	同上
単元未満株式	普通株式 250,240	—	同上
発行済株式総数	42,206,540	—	—
総株主の議決権	—	413,505	—

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,600株(議決権16個)含まれております。

2. 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式32株が含まれております。

### ② 【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) キヤノン電子株式会社	埼玉県秩父市下影森1248	605,800	—	605,800	1.4
計	—	605,800	—	605,800	1.4

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年1月1日から平成25年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	28,489	27,593
受取手形及び売掛金	16,879	16,671
リース投資資産	204	188
商品及び製品	1,570	1,531
仕掛品	2,875	3,334
原材料及び貯蔵品	135	134
繰延税金資産	428	782
その他	1,325	1,569
貸倒引当金	△5	△5
流動資産合計	51,903	51,800
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	14,844	14,764
機械装置及び運搬具（純額）	2,204	2,196
工具、器具及び備品（純額）	3,163	3,317
土地	13,696	13,784
建設仮勘定	366	706
有形固定資産合計	34,275	34,769
無形固定資産		
のれん	185	138
その他	841	841
無形固定資産合計	1,026	980
投資その他の資産		
投資有価証券	1,403	1,748
繰延税金資産	1,587	1,375
その他	865	955
貸倒引当金	△1	△1
投資その他の資産合計	3,855	4,078
固定資産合計	39,157	39,828
資産合計	91,061	91,628

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,576	14,757
リース債務	75	76
未払費用	1,448	958
未払法人税等	1,702	1,254
賞与引当金	352	1,372
役員賞与引当金	50	11
受注損失引当金	45	34
その他	1,766	1,293
流動負債合計	20,019	19,758
固定負債		
退職給付引当金	2,255	2,215
役員退職慰労引当金	371	252
繰延税金負債	48	54
その他	164	107
固定負債合計	2,839	2,630
負債合計	22,858	22,388
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,969	4,969
資本剰余金	9,595	9,595
利益剰余金	54,808	55,319
自己株式	△1,070	△1,070
株主資本合計	68,302	68,813
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	89	277
為替換算調整勘定	△464	△124
その他の包括利益累計額合計	△375	153
新株予約権	235	230
少数株主持分	40	43
純資産合計	68,202	69,239
負債純資産合計	91,061	91,628

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
 【四半期連結損益計算書】  
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
売上高	25,722	23,241
売上原価	20,675	18,363
売上総利益	5,047	4,877
販売費及び一般管理費	2,479	2,515
営業利益	2,567	2,362
営業外収益		
為替差益	597	276
その他	48	90
営業外収益合計	645	366
営業外費用		
支払利息	0	—
その他	1	0
営業外費用合計	2	0
経常利益	3,211	2,728
特別利益		
新株予約権戻入益	7	4
その他	1	0
特別利益合計	8	5
特別損失		
固定資産除売却損	0	1
特別損失合計	0	1
税金等調整前四半期純利益	3,219	2,732
法人税、住民税及び事業税	1,496	1,212
法人税等調整額	△421	△242
法人税等合計	1,075	970
少数株主損益調整前四半期純利益	2,143	1,761
少数株主利益	3	2
四半期純利益	2,140	1,759

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,143	1,761
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	193	188
為替換算調整勘定	205	340
その他の包括利益合計	399	528
四半期包括利益	2,542	2,290
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,539	2,287
少数株主に係る四半期包括利益	3	2

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)
<p>(永年勤続慰労引当金)</p> <p>当社は、永年勤続の従業員に対する慰労金の支出に備えるため、内規に基づく支給見込額を「永年勤続慰労引当金」として計上していましたが、リフレッシュ休暇制度の廃止に伴い、「永年勤続慰労引当金」を全額取り崩しております。</p> <p>なお、この変更による当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。</p>

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

従業員の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
従業員の借入金(住宅資金) 112百万円	従業員の借入金(住宅資金) 107百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)
減価償却費	779百万円	1,028百万円
のれんの償却額	46 "	46 "

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年3月28日 定時株主総会	普通株式	1,265	30.00	平成23年12月31日	平成24年3月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年3月27日 定時株主総会	普通株式	1,248	30.00	平成24年12月31日	平成25年3月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額(注)3
	コンポーネント	電子情報機器	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	13,962	9,163	23,125	2,596	25,722	—	25,722
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	22	206	229	93	323	△323	—
計	13,984	9,370	23,355	2,690	26,046	△323	25,722
セグメント利益 又は損失(△)	1,522	1,221	2,743	△16	2,727	△159	2,567

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主にソフトウェアの開発・販売  
ITソリューション等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額(注)3
	コンポーネント	電子情報機器	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	12,390	8,255	20,646	2,595	23,241	—	23,241
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	12	172	184	60	245	△245	—
計	12,403	8,427	20,830	2,655	23,486	△245	23,241
セグメント利益 又は損失(△)	1,365	1,247	2,613	△21	2,592	△229	2,362

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主にソフトウェアの開発・販売  
ITソリューション等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
1株当たり四半期純利益金額	50円76銭	42円28銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	2,140	1,759
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	2,140	1,759
普通株式の期中平均株式数(株)	42,173,112	41,600,558
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年5月14日

キャノン電子株式会社  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中山 清美 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 薄井 誠 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているキャノン電子株式会社の平成25年1月1日から平成25年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年1月1日から平成25年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、キャノン電子株式会社及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

**【表紙】**

<b>【提出書類】</b>	確認書
<b>【根拠条文】</b>	金融商品取引法第24条の4の8第1項
<b>【提出先】</b>	関東財務局長
<b>【提出日】</b>	平成25年5月14日
<b>【会社名】</b>	キャノン電子株式会社
<b>【英訳名】</b>	CANON ELECTRONICS INC
<b>【代表者の役職氏名】</b>	代表取締役社長 酒 巻 久
<b>【最高財務責任者の役職氏名】</b>	該当事項はありません。
<b>【本店の所在の場所】</b>	埼玉県秩父市下影森1248番地
<b>【縦覧に供する場所】</b>	キャノン電子株式会社東京本社  (東京都港区芝公園三丁目5番10号)  株式会社東京証券取引所  (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社の代表取締役社長である酒巻 久は、当社の第75期第1四半期(自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

## 2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。

